

<学びの教室コラム> 「学び・遊び・つなぐ」プロジェクト

先生の卵のための学級経営ワーク

西谷智子

1 はじめに

この度、鳥取大学の学生に向けて、現職教員としての思いや、私が思う学級経営で大切にしていることについて話す機会をいただいた。ここでは私の話を聞くだけでなく、学生本人に学級経営上におこりうる課題に取り組んでもらった。そうすることで、自分自身の教職への思いや教師になる前に必要なことは何かを考える機会になると考えた。私自身題材となるエピソードを考える中で、自分の出会ってきた生徒たちを思い出し、そこから学んだエッセンスを抽出する作業でもあった。教員として不易なものや時代の変化に合わせて変化すべきものを考えながら、この機会をいただけたことは、私にとっても大変有意義な時間だった。その講義の概要をお伝えする。

2 理想の先生・クラスの可視化

まず初めに、なぜ先生になろうと思ったか？いいクラスとはどんなクラスか？いいクラスを作ることができる先生とはどんな先生か？について考え、書き出し、共有してもらった。そうすることで、今までの「先生」との関わりを振り返り、教員への憧れや理想を明確化することを狙った。自分の中の「いい先生・いいクラスの可視化」を試みることで、改めて自分は何を目指すのかがはっきりした様子だった。どんな先生でもうまくいかなかった過去があり、苦勞をしながらでも頑張れるのは、子どもたちに苦勞以上の魅力があるからであると伝えることができた。

3 エピソードから考える

次に実際に私が体験したエピソードを元に、具体的場面を提示し、自分が担任だったらどうするか、なんと声をかけるか想像するワークを行った。「その場で共有する場を持ち、他の人と話し合い、一緒に悩むことが楽しかった」との感想をもらうことができた。同じ志を持つ仲間と意見交流する時間が持てたことに、大きな意味があったと思う。

【まずは生徒一人一人を理解する】

教職を目指す学生の多くは、周囲に認められ、励まされ、頑張ってきたことの達成感を味わった経験があると思う。「頑張ったらいいこともある」と思えるのは、「頑張ってよかった」と思えた経験があるからである。しかし頑張ったけど、認められなかった、成功しなかった、そんな経験しかない子、何度も何度も失敗している子は頑張れない。「頑張ったら支援してやる」のでいいのか。いかにも支援しがいのない子をどう支援するか。そんなテーマで考えた。

学生の感想として、「様々な背景を持つ子どもたちがいる。何か問題が起きたときには、当事者の考えや事情を知ることではしか見えないものがある。そのことが理解できなければ、多様性を認め合う安心・安全な学級作りはできない。」というものがあつた。実際に教育実習を

体験している学生は、「授業中にトイレに行く子、ノートをとらない子がいて、どう対応していいかわからなかったが、それは生徒を理解していなかったからだ実感できた。」と感想を書いてくれた。一人として同じ子はいない。そのことを改めて実感したことで、自分の持っている価値観を押しつけず、否定せず子どもと向き合うことの大切さを私も再認識した。

【保護者との信頼関係を構築するには】

「この先生だったら相談してみよう」と思ってもらえるには、どんなことに気をつけたらいいかを考えた。特に保護者対応は、学生には未知の世界で、うまくできるか不安が募る。しかし私は、普段の人間関係と同じであると伝えた。どんな親だって、その子の子育ては初めてで、不安な中で子育てをしている。課題を抱える子どもを持つ親なら、なおさらだ。だからこそ、きちんと挨拶をする。悪いことだけを伝えない。いいこと、できていることも同じくらい伝える。そして、保護者を責めない。立場は違っても、一緒に子どもを育てていくものとして苦勞を理解し、労うことを忘れないことが大切だと私は思っている。

4 学生の今やっておいてほしいこと

学生には時間がある間に是非やっておいてほしいことを伝えた。

① インプット

社会に出れば、今まであったことのないような人（生徒・保護者）に出会う。いろんな人のいろんな人生を知っておくことで、様々な視点を持ち、柔軟な対応ができると考える。たくさんの本を読むことで新しい視点を、旅をすることでそこに行かないとわからない空気感を知る。いろいろな立場の人と語り合うことで、人間の深さに思いを馳せる。もちろん、今しかできない勉強もしっかりやって、充実した日々を送ってほしい。

② アウトプット

最近はコミュニケーションが苦手で、人前でうまく話せないという若者が多いと聞く。実際のところ、それは話し方の問題ではなく、夢中で話すだけのものが自分の中にあるかどうかの問題なのだと思う。話す内容や話す人に魅力があるかで、こちらの思いが聞いてもらえるかどうかが決まる。今のうちに夢中で話せる何かを作り、恥ずかしがらずに、自分の夢や希望を堂々と語れるようになってほしい。いざ語るべき時が来てからでは、間に合わない。

5 まとめ

私の話を聞いて、教員になるのが怖くなったという学生がいた。ただ、今の私を作っているのは成功でなく、数々の失敗である。たくさん失敗と小さな成功の積み重ねが今の自分を作っている。その言葉を聞いて失敗が怖くなくなった学生もいて、私の失敗も役に立てれば嬉しい。教員の仕事はブラックであると言われる。だからこそ、たくましくなっておかなければならない。たくましさとはい、友達や相談先、自分を助ける言葉をたくさん持つておくことであり、うまくできなかったこと、失敗を経験しておくことだと思う。そして、今の頑張りは貯金できる。過去の頑張ったことが、後の自分を助けてくれる。もちろん、その場その場で勉強すること、学び続けることも大事である。私は一生勉強、一生青春して生きていきたい。

西谷智子（鳥取湖陵高等学校教諭）